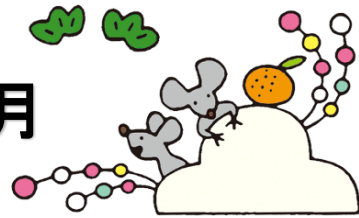




ほけんだより 1月



令和 4年 1月

白鳥保育園
看護師

12月の感染症

アデノウイルス1名

分園で下痢・嘔吐など消化器症状のある子が多くいました。

あけましておめでとうございます。

子ども達と長い時間を過ごす年末年始のお休み♪

『子どもへの声かけ』を参考にしてください。

今年も子ども達が健康に過ごせるように、ほけんだよりを通して園で流行っている病気や園内での集団検診の日程についてお伝えしていきます。本年も宜しくお願い致します。

★3・4・5歳児★ ↓

大人の言葉をかなり理解できるようになる3歳児以降の子どもたち。大人の意図をきちんと伝えながら、子どもの自発性を伸ばす言葉をかけていきましょう。

子どもへの声かけ

0歳～ 行動の前には必ず声をかける

急いでいるときにも無言は禁物。「○○ちゃん、おむつ替えようね」など、名前を呼んで次にする行動を説明しましょう。

1～2歳 気持ちに共感する

「うれしいね」「悲しいね」など、子どもの思いを言葉にしていくことを繰り返す中で子どもは大人への信頼感を深め、また言葉を覚えていきます。

2～3歳

プラスの言葉で

「上ってはダメ」ではなく「下りようね」と、肯定的な言葉をかけましょう。「ダメ」と言われ続けると、主体的な行動ができなくなってしまいます。



2～3歳

子どもに考えさせる

「こういうときはどうするんだっけ?」「どうすればいいと思う?」など、子どもに考えさせるような言葉も効果的です。

子どもへの声かけ

具体的に話す

「○○しなきゃダメ」ではなく、「○○だからこうしてね」とその理由を説明。「早くして」ではなく、「いつまでに」を伝えます。



子どもを褒める

「○○してくれてありがとう」「○○ができてすごいね」と、その場で具体的に褒めたり、感謝の言葉を伝えたりします。

期待をふくらませる

出かける前にトイレなどの用事をすませてほしいときは、次の行動を楽しく説明し、「そのためには……」と今やってほしいことを伝えます。

気持ちを代弁する

けんかで感情が高ぶって泣いているときなどは、「こうしたかったんだよね」など、その気持ちに寄り添い、代弁します。

提案する

「こうしなさい」「やめなさい」ではなく、「こうしたらどう?」「こうしてみようか」「こういう方法もあるよ」と提案します。

★0・1・2歳児★ ↑

子どもとのきずなを強くし、子どもの心や社会性を育てていくためには、赤ちゃんのときからの大人の言葉かけが大きな役割を果たします。



内科検診を園で受けられなかった園児は、1月中にあさとクリニックを受診し、健診をお願いします!!

今年度の健診・検査は全て終了しました。ご協力ありがとうございました。